



# そしん

第45号

発行/社会福祉法人 素心会  
責任者/事務局長 高瀬 尚人  
〒259-0103  
神奈川県中部大磯町虫産 39 番地 1  
TEL.0463-71-1255  
レイアウト・印刷 貴塚荘ワークピア



## 第42回関東地区 知的障害福祉関係職員 研究大会の出場

「3年後の関アロで利用者の会の実践報告をしよう」施設長からの突然の誘。この話を軽く受け流していた私の心は「3年後はお嫁に行っているはず」後任者、頑張れ!! とエールを送りました。



月日の流れは早いもので、固い誓いは果たされず、今年4月にプロジェクトRが立ち上げられました。メンバーは大野・西垣・熊澤・川崎・大塚の5名。貴重な報告の場、利用者が主体となり集ってきた「利用者の会」と「支援委員会」の悩みと工夫を大会参加者の心に残すよう、楽しく伝えることを目標に取り組みしました。毎回の会議は真剣であり、愉快であり、挑戦の場でした。初めてのパワーポイント使用と画像の編集、原稿の作成、その大変さと面白さは筆舌に尽くし難いものでした。しかし、この3か月は私達への大きく成長させてくれた機会となりました。今回、利用者の会を振り返るとき、大きな気付きを得ました。それは8年間の積み重ねがあつたことと、発足当初の前提である「利用者利用者が主体となる開催する会である。一人の利用者の声を大切に、利用者が持てる力を発揮できるように支援する」というスタートラインに立つことができたことです。今後も利用者が知る、表現することの工夫を重ね、利用者の可能性が広がる会としていきたいと思っております。

素心学院 大塚 晃子

## 虫産24番地

引越しましたー！  
私事ですが、先日平塚に引越してきました。今までもずっと横須賀に住んでいて、初めての引越し初めての一人暮らし、期待と不安半々でしたが、今は何とか快適に過ごせています。  
引越した当初は自炊するまで意識込んで炊飯器やフライパン等そろえたのですが、使ったのはわずか数回と、完全に外食生活に慣れすぎて満ちの道まらなくなりました。  
少しでも体重を維持するため、土日に平塚総合公園にでもジョギングに行くのが悩ましいです。  
今年度から新しくデイセンターに入りました。至らない点もたくさんあると思いますが、日々精進していくつもりです。よろしくお願いいたします。

素心デイセンター 笹森 俊平

## 後援会会員募集

- 会費は個人一口、年1,000円から法人・団体一口、年10,000円から
- 会員には、新聞「そしん」をお送りします。
- 行事のご案内などをします。

### 会費の納入先

銀行振込は  
中南信用金庫国府支店  
014-0139723  
郵便振替はどこの郵便局でも  
00270-0-19507です。

口座名は  
社会福祉法人素心会後援会  
会長 鈴野七郎

※新しく会員になる方は  
ご住所を電話等でお知らせ  
いただくようお願いいたします。

事務局  
〒259-0103  
神奈川県中部大磯町虫産 39-1  
素心会後援会  
TEL.0463-71-1255  
FAX.0463-73-0009

## 素心会事業所 アドレス

素心学院	神奈川県中部大磯町虫産 39-1	TEL.0463(71)1255 FAX.0463(73)0009
素心デイセンター	神奈川県中部大磯町虫産 18-1	TEL.0463(71)1256 FAX.0463(71)1284
さざんかホーム	神奈川県中部大磯町国府本郷 1308	TEL.0463(61)1519 FAX.
かもめホーム	神奈川県中部大磯町大磯 1370-23 コープKY2F	TEL.0463(61)5404 FAX.
つばきホーム	神奈川県中部大磯町国府新館 482-1	TEL.0463(71)0990 FAX.
シーベルホーム	神奈川県中部大磯町大磯 2232	TEL.0463(61)5281 FAX.
地域支援センターそしん	神奈川県中部大磯町虫産 18-1	TEL.0463(70)3577 FAX.0463(72)2577

◆◆ 編集後記 ◆◆

子どものころ、親から「本を読みなさい、辞書を引きなさい」と言われた記憶がある。もちろん親の言うことに耳を貸さず、遊んではばかりいた。

タイムスリップしてやり直したいが、残念ながら結果は同じであろう。頭より心で利用者を支えたい。

素心学院 西垣 宏和

平成二十二年は気象庁の観測史上でも最も暑い夏だったようです。前年と比べて平均気温が1℃を超える数値と報じられました。

ニユースで関東地方でも南国の果物であるバナナがたわわに実っている映像をみて平成二十二年は暑くない年であることを祈りたいです。

事務局総務課 伊左 友志

他者に何かを伝えることは難しい。今回初めて「そしん」の発行に携わったが、記事を書く際、様子や雰囲気や文字だけで表すことで、言葉を探すことに苦労した。

直接相手に会い、感情なども交えながら伝える大切さ、便利さを再発見した。

素心デイセンター 小清水 俊介

## 理事会・評議員会の動き

- 第十八回評議員会  
平成二十二年三月十日(土)  
一 平成二十二年度事業計画を承認。  
二 平成二十二年年度予算を承認。
- 素心学院及び素心デイセンターの施設長の異動を承認。  
四 事務局長の昇任を承認。
- 第五八回理事会  
平成二十二年三月十日(土)  
一 四号議案まで評議員会と同じ。
- 第十九回評議員会  
平成二十二年五月十九日(土)

一 平成二十二年事業報告。  
二 平成二十二年年度決算報告、監事監査報告の後、事業報告と合わせ承認。  
三 任期満了に伴う理事及び監事の選任。  
四 任期満了に伴う評議員の選任。  
五 理事の互選により片平理事を選任。  
六 理事長から萩原理事を常務理事に指名。

●第五七回理事会  
平成二十二年五月十九日(土)  
一、二号議案及び監事監査報告まで評議員会と同じ。  
三 評議員会選任の理事及び監事に対する同意。  
四 任期満了に伴う評議員の選任。  
五 理事の互選により片平理事を選任。  
六 理事長から萩原理事を常務理事に指名。

●所属長の異動  
4月1日付で、素心学院施設長と素心デイセンター所長の交代人事があり、素心学院施設長に伊藤倫博、素心デイセンター所長に萩原勝己が就任しました。また、高瀬尚人が法人事務局長に昇任しました。  
引き続き、よろしくお祈りいたします。



平成23年は5人の方が成人式を迎えられます。20歳という人生の節目、思い出に残る会を実施いたします。

真をお渡ししました。

記念品には、全職員からのメッセージを寄せた色紙と皆さんの素敵な笑顔を集めた写真をお渡ししました。

平成23年は5人の方が成人式を迎えられます。20歳という人生の節目、思い出に残る会を実施いたします。

### 成人を祝う会

平成23年7月20日に還暦を迎えられました。本人はとて若々しい様子で、1日の始まりは早朝のトイレ掃除から、日中は鈴の組立作業を昼食をはさみ午前・午後行われています。日中活動がな

### 素心デイセンター

小清水 俊介



### 還暦のお祝い

### 素心学院

小池 勇さん

週末は外出されているときもありますが、居室でテレビをみたりして過ごされています。以前と比べ年齢を重ねられたせいかわが少しゆつくりとした様子にも感じられます。還暦のお祝いについては素心学院の利用者の皆さんで行いました。夕食前赤いちゃんこを着ていただき記念撮影をしました。ご本人にはお寿司を召し上がっていただきました。いつまでもお元気で暮らせるよう支援をしていきたいと思います。

素心学院 青野 昭裕

## 納涼祭

～素心ちびっこ太鼓～

素心学院 川崎 太一



納涼祭は素心学院、素心デイセンター、地域支援センターと、素心会の法人全体が集う唯一の行事。平成17年12月に児童デイサービスが開始したこともあり年々参加者は増え大変にぎやかな催しとなっています。

今年の納涼祭はメインイベントとして実施した。二目は大磯マリンセンター、地域支援センター、素心会の法人全体が集う唯一の行事。平成17年12月に児童デイサービスが開始したこともあり年々参加者は増え大変にぎやかな催しとなっています。



## 旅行・外出について(学院)



素心学院に入所されている利用者の方は30歳から昨年米寿を迎えられた88歳の方まで75名が利用されており、平均年齢は54歳です。利用者の高齢化に伴い介護を必要とする方が増え、車椅子の利用も年々増えており、ニーズも多様化しているのが現状です。

今回旅行企画委員会は利用者の方の年齢・ニーズに着目し、日帰り外出をコース「泊旅行をコース企画させていただきます。

「外出を満喫していただきたい」これは支援員が常に念頭に置いていることです。

介護を必要とされる方はどうか



で気兼ねしたり、不安を抱えていると思います。そんな気持ちを感じさせない完全バリアフリーの施設を利用していただく旅行プランを考えました。ホテルのお部屋は段差がなく車椅子が行き来できる部屋に露天風呂が完備されています。

そして、利用者一人ひとりに先を先を先を先を先のために写真を使用しました。また外出先が決定した後、プリントを配布し施設内に貼り出しました。その際、旅行や外出への期待感が高まり、また話題にのぼりやすくなることで「ミニセッション」も図れました。外出後は皆思い出を共有す



るために、月回行われる利用者の会にて撮った画像をスクリーンで映しました。利用者一人ひとりにサポートがあるよう支援員一丸となり工夫しながら作り上げ好評でした。

今後も利用者が楽しめる企画を考えてまいります。



素心学院 西垣 宏和

## 旅行について(中心)

素心デイセンター 武間 和美



デイセンターでは諸事情により休止されていた泊旅行が、4年ぶりに復活した。行き先はアンケイトをとり、希望を中心に決定した。久しぶりで少ない旅行を経験した職員が少ないこともあり、再開初年度の今年は8グループに分けて実施することになった。希望者は圧倒的に「ディズランド」が多く、8回のうち4回はディズランドに行くことになった。ほかには「サーマーズ」(千葉県)「熱気球体験(八ヶ岳)」(東伊豆温泉)「ランチクルーズ」(お台場散策(東京都))と多彩な行き先となった。旅行企画委員会では安全で楽しい旅



ができるように毎月話し合い企画の時を持つ。普段素心デイセンターの中だけでは見られない利用者さんの姿を発見したり、一緒に日間を過ごすことでお互いにか親しみを増したり、付き添い職員にとっても意味のある旅となることだろう。

# PT・OTを招致による指導、訓練

地域支援センターそしん 鈴木 綾子



素心会を利用している方々の中に身体障害者があり、身体機能の向上回復・維持のためのプログラム提供の必要性を感じる人は40人以上思い当たる。また、発達障害等で作業療法・言語聴覚療法を求めている人も同じ数ほど浮かぶ。しかし、〈近隣に専門機関がない〉〈制度や費用の縛りから継続的支援は受けにくい〉〈児童においては就労すると学校が主体となり通う時間がない〉等の理由から指導を受けている人は極わずかに留まっているのが現状である。結果的に基本的動作の習得や向上、日常生活活動を改善するための指導をして社会生活を送る上で不利な要素を少なくするための専門的なサービスを受けられないまま時間が経過する傾向が強くなり、加齢とともにますます本人の状況は悪化していくことが考えられる。



入所にかかわらず専門的な指導を継続して受けられる体制づくりの必要性から平成20年度より月1、2回ほど小田原の風祭にある太陽の門より理学療法士と作業療法士の両名にきていただき定評の評価と指示をお願いしている。

この機会を得て、本人の現状を的確に判断していただき職員たちも改めて対象者に向き合い、知ろうとする努力をし、快や不快の表出・変化の気ま、五感を使役での呼吸合わせ等、希望の連鎖を肌で感じることに繋がっている。本人がいかにその気になり、こちらはいかにその気にさせるか、工夫しながら楽しみながら時間を重ねている。何より日々の取り組みが重要となってくるため、御家族や関係者に同席していただく場合も多々あり、安全・安心・可能性・希望などを確認しながら、それぞれ生活の部として実践し、評価・検証・助言(モニタリング)していく体制を整えたいと考えている。



# 陶芸家の再開

素心学院 小林 裕美子

陶芸クラブ再開の準備は昨年のこと。素心会、各事業所から集

まり構成された芸術活動推進委員(メンバー)が中心で行いました。社会福祉法人開く会で陶芸活動している萩原さんが来院。陶芸室の現状を見てアドバイス、アイデアを頂き、いよいよ新しい陶芸室作りの始まりです。時間が止まった陶芸室に、新しい風を運び入れます。テーブル・棚などを全面的に配置換え、古道具類のメンテナンス、新しい道具の購入。業者による点検、使用方法について伺い、少しずつ現実になっていきます。

準備の最終段階は、実際に支援員が鋳を使用し作品を制作し、成形、素焼き、色付け、本焼き等の作業工程の確認を行いました。準備と平行してクラブのメンバーを決定して行くと。

今年初めに新しいメンバーと共に陶芸クラブの活動がスタートしました。陶芸クラブでは現在、楽しみ方は個性豊かに色々な方に利用されています。水曜日はデイセンター利用者さん、木曜日は学院利用者さん、不定期に支援センターの子供たちが陶芸クラブでの活動を行っています。スタート1年目にして、陶芸にふれ、粘土をさわること多くの笑顔を見ることができたことは、私達支援員の成果となりました。

# 家族ペンフレンド

## 素心デイセンタリ

小川 真司さん  
小川 百合子さん(母)



生まれた時の体重は2868g。(決して小さくない)口蓋裂と心臓の欠陥が認められた。ミルクが飲めず一時間に20cc飲むのがやっと。夜はほとんど眠れなかった。1か月検診の時に体重が増えず看護師さんに「あなた一何をしていいのですか」と言われた。6か月を過ぎると今度は肺炎に何度もかかり、入退院

の繰り返し。一歳の時の体重が7kg(6か月児の平均体重だった)、発達が遅れ、色々な病院を歩いた。不安で孤独だった。アグネス園のリンゴ組に入った。同じ立場の子供達と出会って、支える人たちを知った。心強かった。このころから、真司は大変な子夫になり、養護学校では、ほとんど休まず通うことができた。言葉はでなかったが、食べ物の好き嫌いはほとんど無く、美味しい物を口に含んだと

きのニコツとした笑顔、音楽にノリノリの時の真司は最高です。昨年から素心デイセンタリにお世話になっている。素心での手作りの温かいお昼ごはんは真司にとって本当に楽しみだと思っ。音楽クラブなど、イベントもとても楽しんでいと思っ。

2010年10月25日真司20歳おめでとう! これからもよろしくお願ひします。

# 家族ペンフレンド

## 素心学院

関根 幸雄さん  
関根 威治さん(兄)



弟 幸雄が素心学院にお世話になるようになって、もう40年以上が過ぎました。永い間素心で、そして昨年11月から白鷺寮に移りました。

弟は学院が大きくて、帰宅しても直ぐに「学校に帰る」と言う程で、自分の家は学院と思っているようです。我ままな弟がそれ程気に入っているのは、先生・職員の皆様が一生懸命お世話をしてくださるお蔭と、心から感謝しております。

弟が若いころからハイキング・運動会等、私も母と一緒に参加して楽しく過ごさせていただきました。ところが60歳を過ぎた一昨年位から時々体調を崩して、通院したり、入院することが多くなり、今まで以上に手が掛り、先生方に御心配をおかけしています。

今年に入ってから、老人特有の症状が出てきたようで、私共の顔も段々判らなくなってきました。母も一昨年他界し、たった二人の弟で、寂しい限りです。

20歳までと言われた命です。後は残された人生を平穩に過ごしてくれることを願うだけです。

めまぐるしく変わる世の中、素心学院が末水へ続くことを祈ります。